

About 概要



約8万点の収蔵品

常設展示室では「中世の行田」「近世の行田」「足袋と行田」「古代の行田」の4つのコーナーに分けて行田の歴史を紹介しています。常設展示も数カ月おきに一部が展示替えされており、季節ごとで表情が変わります。長年の間に市民の方々から寄贈・寄託を受けた豊富な収蔵品が厚みのある展示を支えているのです。

開館36年目

郷土博物館は、昭和63年2月17日に開館しました。玄関横は光が差し込む開放的なデザインで常設展示室へ向かう来館者を迎えています。博物館には展示室だけでなく、収蔵品を保管する収蔵庫や作業室、消毒するための燻蒸室があり、裏方から博物館の役割を支えています。また、現在ラウンジでは日本遺産について映像やパネルで紹介しています。



市民にこそ行ってほしい 行田市郷土博物館

博物館という観光地としてイメージする方もいるかもしれませんが、地域の歴史は地域の人に知ってもらってこそ。博物館は老若男女が楽しみながら行田の歴史と文化を学べる地域の財産です。

博物館の役割は、

『収集・保管・調査研究・展示』

市内には古代の遺跡が多く残り、中世には忍城が築かれ城下町が形成されました。江戸時代から始まった足袋づくりは全国生産1位となり近代行田の産業を支えました。郷土博物館は、このような本市の歴史的な文化遺産を収集・保管して次世代に伝え、同時に調査研究し、展示を通して市民の教育・学術・文化の向上に寄与することを目的に設立されました。

昨年入館者数200万人を突破した行田市郷土博物館。気候に左右されず楽しめる博物館は絶好のお出かけスポットです。

博物館は、歴史を肌で感じられることが魅力の一つです。展示物として私たちの目に触れるまでの流れや、見学時に着目すると面白いポイントを知り、さらに博物館を楽しんでみませんか。



あなたの知らない

行田市 郷土博物館



晴れの日も、雨の日も。思い立ったその日が博物館日和。



国指定の資料が常設展示 「本物」を肌で感じる

郷土博物館には、国から歴史的、学術的な価値を高く評価された国指定重要文化財「酒巻14号墳出土埴輪」95点と国指定重要有形民俗文化財「行田の足袋製造用具及び関係資料」5,484点が収蔵されています。いずれも博物館の看板資料であり、一部が常設展示されていて、一見の価値ありです。

おうちから 全国の博物館とつながる おうちミュージアム

ぬりえやクイズなど小さなお子さんも楽しめるものから、鑑賞ガイドのような読み物、古文書講座のデジタルテキストなど、さまざまな電子コンテンツをホームページに用意しています。



知的好奇心をくすぐる 趣向を凝らした展覧会

春の収蔵品展、夏のテーマ展、秋の企画展など展覧会は年に4～5回行われます。展覧会では普段お目にかかれない展示品を鑑賞できるチャンス。行田市に関連するテーマや収蔵品にスポットライトが当たるので、ストーリー性が楽しめるのも魅力です。現在は、博学連携展示「行田市のうつりかわり」を4月2日(日)まで開催しています。

博物館 の 魅力



行田の歴史をもっと身近に 充実の体験学習 イベント

行田の歴史や文化について、楽しく学べる体験学習や工作イベントも四季折々に開催しています。子ども向けの「忍城ミュージアム通信」では、イベント広報に加え、博物館がもっと楽しくなる豆知識が満載です。



入館券

入館券には、火縄銃を扱う忍藩士の姿や大砲の訓練の様子を描いた「砲術形状図式」の一部が使用されています。料金区分によって絵柄が異なり、団体用の入館券は縦型のデザインになります。

御三階櫓

天守閣のなかった忍城にとってシンボリックな建築物だった御三階櫓。阿部氏が忍城主時代に建てたかつての御三階櫓は、現在の水城公園の北側出入口付近に建てていました。明治時代の忍城解体に伴い破却されましたが、絵図などをもとに現在の場所に再建されました。

御三階櫓の中は展示室になっており、最上階である4階は展望室になっています。



Topic トピック



博学連携

博物館では、地域の歴史や文化を調べ、実物資料から学ぶ体験を提供しています。その一環として、学校への資料貸出や、学芸員が学校に向き児童・生徒にミニ講座を開催する「出張博物館in教室」などを行っています。

また、小・中学生本人が学校の宿題や自由研究のために博物館を利用する場合には「宿題しらべ」を利用できます。受付で申込書に記入することで無料で入館することができます。